

横浜にぎわい座 令和2年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	加世田委員	藤崎委員
Ⅰ 文化事業①	<p>【評価する点】</p> <p>○「名作落語のタベ」のテーマに＜落語会のアスリート＞＜江戸っ子気質＞＜落語で職業体験＞等があり、その着眼点の面白さは落語になじみの薄い観客の目を引き付ける効果があると思われ評価します。ネタ(演題)もテーマに合っていると思います。</p> <p>○「上方落語会」を定例的に開催されることを大いに評価します。都内では定期的に上演する寄席はありません。上方落語から江戸落語に移入された作品も数多く、二つの落語が交流して新たな作品が生み出される契機ともなり、この二つの文化を比較する意味は非常に大きいと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>○若手演芸家の奨励のため更なる人材発掘の多様な企画を期待します。新しい観客層を開拓するには今の若手の充実が必須だと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>令和2年度は、コロナ禍の影響が極めて大きく影を落としましたが、施設としてはこの外的要因にしっかりと対応し、大きな混乱もなく、運営されたことを評価する。特に、休館の2か月に加え入場制限や飲食の禁止、営業時間の短縮、内容の変更など活動に大きな制約がある中でも、できるだけ開館し、計画に沿った事業の展開を積極的に行い、タップダンスを盛り込んだ事業の実施、のげシャーレの活用、アウトリーチ活動などの積極的な事業展開は、高く評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コロナ禍は、この業界に未曾有の影響を与えたが、かなりの課題がコロナ禍前から認識されながら着手されなかったものであろうと思われる。例えばデジタルの活用や多様な観客層へのアプローチなど、改めて今回顕在化したのが、かねてより指摘されてきたものである。特にデジタル技術の広報宣伝普及活動への活用により、未利用者に接触できる可能性が示されたといってもよいだろう。人員体制や予算の制約に加え、場合によっては権利関係の整理も必要ではあるが、オンラインコンテンツ作成も含め、デジタルを使った様々な情報発信について引き続き拡充する方向性を探ってもらいたい。また、ウェブアンケートも創意工夫により活用されているとのこと、今後につなげていってもらいたい。さらに、コロナ禍の試みから新たな試みや若年層を中心とする新規分野の開拓も見られており、こういった部分も発展させていきたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・コロナ禍の影響で入場者数は減少していますが、開館した7月からは、開催会場を変更したりと感染拡大防止の工夫をしつつ、積極的に数多くの公演を開催されました。</p> <p>・演者の機会を減らさないよう可能な限り「延期」にして積極的に開催したこと、特に若手の登用公演は年間目標数より大変多く開催されました。</p> <p>・観客創造事業「ただの野球好き」といった企画公演では、目標人数よりかなり多くの集客ができており、企画内容が新たな層の獲得につながったと思われます。</p> <p>・会員数も目標値を超えており、魅力的な公演を数多く開催していることが成果につながっていると思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・WEB アンケートの試行をされましたが、オンラインにできることはオンラインでも実施できるよう、引き続き検討していただきたい。にぎわい座に来て頂き、演者と観客がつくる空気感、生の芸能を楽しめるのが魅力ですが、来場が難しい方もあり、オンラインが普及しつつあるこれからの時代に向けた取組に期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・「企画公演」にて、客席数の減少により出演者を減らした公演が多い中、目標を上回る公演を実施できた点。</p> <p>・「観客創造事業『趣味をテーマの演芸会』(野球、鉄道)」を実施し、これまでと異なる新たな客層を開拓できた点。</p> <p>・NHK 文化センター横浜ランドマーク教室からの要請による講座が、継続開催に向けた方向で進んでいる点。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・実験的に実施した Web アンケートについては、課題を整理した上で今後本格導入していくことを期待します。</p> <p>・修学旅行の代替として寄席体験が利用された実績を分析し、今後の学校向け広報に生かされることを期待します。</p> <p>・状況に合わせて展示内容や演目を変更するなどの対応を取りながら、コロナ禍後の公演に臨まれることを期待します。</p>
Ⅰ 文化事業②	<p>【評価する点】</p> <p>○電子大福帳の充実した情報記録を評価します。「にぎわい寄席」では前座のネタを掲載するなど資料価値が高く、落語の上演歴として後世に残る仕事だと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>外への情報発信は記述の通り、現状でできることを十分行っていると思われる(コンテンツ作成やさらなるデジタル化は少し時間がかかるのではないかと思う)。地域との連携は、人流を止めるという社会的要請の前にはほぼ困難であったことも理解できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>地域連携は、施設の人員だけで行うのは難しく、やはり周辺のNPO や各活動団体とのネットワークが必要である。また、ボランティアなどの個人サポーターを育成していく必要があるだろう。今回、人流が止まった中、オンラインでの準備作業を進めていただいているかと思うが、今後も引き続き効果的な連携活動を期待したい。なお、展示については、オンライン配信がかなり有効であるといった事例も出てきているので、対面だけでない方法も考えてほしい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・大衆芸能のミニ知識や公演情報などをメルマガや Twitter などで数多く発信し、気軽に楽しめる大衆芸能の周知に努められました。</p> <p>・にぎわいスタッフの意見を生かした業務改善が都度、数多くなされていて、コロナ禍での臨機応変な運営をされました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・地域や団体との連携は、コロナ禍で動きにくい状況にあったと思いますが、街のにぎわいづくりのために、より積極的に取り組まれることを期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・Twitter で、公演のハイライトや豆知識、本日のお題画像など公演情報にとどまらない幅広い内容を発信している点。</p> <p>・にぎわいスタッフの声を生かすための改善提案アンケートを 10 回実施し、業務改善につなげている点。</p> <p>・電子大福帳への公演情報入力や大衆芸能公演のアーカイブ化を実施し、記録整備に努めている点。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・これまで構築してきたサポーターなどとのネットワークを非対面でも強化できるような体制を作られることを期待します。</p> <p>・大衆芸能ミニ知識、公演ごぼれ話、イベント情報などは、動画なども加えた形で発信されることを期待します。</p> <p>・従来の紙によるチラシ配架による広報については、電子チラシ配信への移行を含めて検討されるとよいでしょう。</p>

横浜にぎわい座 令和2年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	加世田委員	藤崎委員
Ⅱ 施設運営	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自治体や国から発せられるコロナウイルス感染予防の各種措置に的確に対応し、感染を未然に防いできたことを高く評価します。 ○緊急事態宣言下での公演開催の有無、入場者数の制限、観客の反応などその都度異なる対応を求められながら、迅速かつ的確な事業運営に努められたことを高く評価します。 	<p>【評価する点】</p> <p>不確定要素の大きな中、市のガイドラインに沿って概ね混乱もなくしつかりした運営がなされたと考える。座席数の制約などにより採算性が低下し、利用が控えられたことは当然であり、十分理解できる。一方、専門的人材を配置し、内部での人材育成も進んだであろうと思われる。このことは今後につながる重要な組織的メリットであると評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>利用についてであるが、これまでの利用者、利用形態以外での貸し出しの工夫もされたとのこと、今後につながる明るい予兆であり、発展の方向を探ってもらいたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、感染対策を工夫しながら適切に運営されました。 ・施設空き情報を SNS でも積極的に発信し、利用促進に努められました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS 対応の専門性など、スタッフに求められる能力は、従前より専門的かつ多岐にわたります。人材育成と体制構築に期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における事業実施に際して、感染症対策に取り組み利用者の安心感向上に努めた点。 ・土日祝日の施設の空き情報をホームページや SNS で年 16 回案内し、利用促進に努めた点。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報漏洩事案が1件発生していることから、再発防止に向け実効性がある仕組みへの改善と研修をおこなってください。 ・日頃より市内事業者との関係を強化し、不測の事態にも柔軟に対応できるようにされるとよいでしょう。
Ⅲ 維持管理	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適切に維持管理されていると評価します。 	<p>【評価する点】</p> <p>維持管理については、特に小破修繕もこまめに行いながら、しっかりと行われたと考える。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>竣工より20年を経過していることから、いずれ行われる大規模修繕を計画的に実施してもらいたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の徹底、経年劣化が進む中で頻発する故障への適切な修繕など、安心安全な施設であるよう維持管理をされました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の受け入れ態勢・運営については、いつでも対応できるようシミュレーションやマニュアル整備に期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の不具合による施設貸出停止、施設管理者有責による事故がいずれも発生しなかった点。 ・優先順位に基づく賞は修繕を実施した点。 ・法令に基づく避難訓練を2回実施した点。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の経年変化に伴い小破修繕で対応できない修繕が増えてくるため、ビルオーナー（管理組合）および設置者である横浜市とのより一層の連携を進めることが求められます。
Ⅳ 収支	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業収支が黒字(30 百万円)であったことに安堵しました。 <p>収入:126 百万円＝事業収入＋横浜市負担金＋国の補助金／ 支出:96 百万円＝事業費／収支差＝30 百万円</p> <p>未知のコロナ禍という非常事態に際し、横浜市の負担金・国の補助金が投入され事業運営が円滑に行われたことを愛好者の一人として感謝します。芸能イベントでは支援を得られない分野もあるなか、十分とは云えないまでも演芸など古典芸能が存続するための基盤が確保できたことを評価します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>今回のコロナ禍では、集客力があり、収益が上がっている施設ほど打撃を受けている。賑わい座もその一つであり、収入減は仕方ないと思われる。そのために国や自治体からの補填助成が用意されたわけで、これらを十分に活用し、大きな損失が出なかったことを評価したい。また、継続的な経費削減努力も評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>財源制約の中、必要なところ(人材育成や若手発掘など)にはきちんと費用を投入しており(のげシャーレでの公演など)、評価したい。長期的な視点から大変重要な投資として引き続き努力されたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入が激減する中、経費節減に努め運営を見直しながら、事業を着実に実施されました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍から回復傾向にあるものの、事業収入の大幅回復は簡単ではないと思われます。協賛金の獲得やオリジナルグッズの販売展開など、従来の収入プラスαの工夫に期待します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光水熱費の基本料金が今後さらに上昇することが予想されるため、一層の節減取組を期待します。 ・コロナ対策物品等使用頻度が高いものは日頃より継続購入されるとよいでしょう。 ・販売拡大のため、オリジナル商品やグッズは EC サイトでの販売での取り扱いを検討されるとよいでしょう。
総括	<p>○「にぎわい寄席」の更なる特色ある顔付けを期待します。若手とベテラン、古典と新作、男性と女性(女流も増えつつあります)など多様な組合せの面白さを印象付ける工夫も必要と思います。</p> <p>○コロナ禍が収束した後も、これまでのような定員一杯に観客を集めることは難しくなると思います。それでも生で観られることが重要なので、客数減という状況で収支のバランスをどう整えるかという課題に早急に取り組むことが不可欠だと思います。映像を活用することも一つの方法ですが、演芸は演劇や音楽と違い場内の笑い声・拍手などの雰囲気鑑賞に欠かせないもので、演者の表情や仕草だけでその面白さを十分に伝えることは難しいと思います。昔ながらのある種の猥雑さも多少は残る寄席が理想ではないでしょうか。</p>	<p>令和2年度のコロナ禍では社会全体に大きな行動変容もたらされ、人流が止まることで大きな影響を受けたが、賑わい座では概ねしっかりと運営がなされ、今後につながるオンラインの活用や、新たな分野への事業展開、新たな顧客・利用者層の顕在化がみられるとともに、収支も公的助成をうまく組み込んでソフトランディングした。また、のげシャーレでの公演を多く実施することで今後に向けた人材育成と発掘は進んだと考える。今後は、特にオンラインの活用による効率的効果的な情報発信などを進めていただき、人流が戻った時には地域貢献にも積極的に取り組んでもらうことを期待したい。(なお、2021年に成立した文化観光推進法では、文化観光は体験その他の活動を通じて文化理解を深めることを目的とする観光とされています。来浜だけでなく、大衆芸能をより深く理解してもらうことも重要なことと思います。)</p> <p>あわせて、外的要因の長期化の中、劇場が対応できることには限界もある。賑わい座のミッションを達成するために、横浜市においても、緊密な連携と情報共有の下、様々な支援の方策を企画・検討していただきたい。</p>	<p>コロナ禍にあって、一般的に「する」より「しない」選択肢をとられることが多い中、大変積極的に公演を開催され、大衆芸能の芽を育てようとしたことを高く評価します。閉館月数を勘案すると、目標数を超える成果を出されている項目も多くあり、相当のご努力があったことと推察します。</p> <p>また、様々な企画があり、その一つ一つが意味をもって開催されていることがよくわかりました。単年度で終わらせず、取り組みが定着するよう事業の価値を継続されていることも評価できます。</p> <p>コロナ禍を経て、様々なものにオンラインが入ってくる時代となりました。リアルだからこそその良さを保ちつつ、時代にあわせた取り組みを進められることを期待します。</p>	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言により、臨時休館や開館時間および人数制限がある中での業務運営となりました。このような制約がある中、指定管理者が感染症対策に取り組みながら事業を継続し、これまで育んできたネットワークを絶やさなかった点は大いに評価できます。また、Twitter をこれまでより積極的に活用し、情報発信に努めたことで、新たなににぎわい座を知るきっかけ作りにも貢献しています。</p> <p>今後は、アフターコロナに向けた事業運営と、それを支える広報活動、人材育成、システム構築に取り組まれ、安定した収支状態が維持できるように努力してください。</p>

令和2年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標①		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
1 大衆芸能の公演、講座その他の事業を企画及び実施します。	(1) 幅広い大衆芸能の演目の多彩な構成による魅力的な公演等を企画・実施します。 (市民ニーズに応え、常時魅力あるプログラムの提供)	【経常公演事業】 ①毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催 ②所属団体・流派等に捉われないバラエティ豊かな出演者により、市民ニーズを満たす公演内容	□年間公演数	200公演以上	170公演	-	・臨時閉館中の4-6月に予定されていた58公演が中止または延期となった。	【成果】 ・コロナ禍の影響を受けて、公演数も減り、入場者数はチケット販売数も悪化しました。その一方で、大衆芸能に生で親しみたいと市民ニーズも根強いことが分かりました。 【課題】 ・当面は、公演内容を精査し、ニーズに応えられる公演にして行っていくことが課題となっています。ただし、それだけを行っていくと、コロナ禍で外出に最も規制がかかっている高齢者に支えられている民謡や喜劇公演は感染症まん延収束までできないことになり、何年かかるか分からない収束後に同じ観客層と出演者で公演を行うのは極めて困難となることも予想されます。 ・大衆芸能は常になだらかな形で市民ニーズを満たす芸術に変化が起きていますが、今回は急速な変化が起きています。それに対してどのように対処すべきなのか幅広い見地を持つことが我々に求められていると感じています。	【評価する点】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月から6月にかけて休館となりましたが、感染対策を十分に検討・実施したうえで、市の文化施設のなかで先陣を切って通常公演を再開し、他の施設の見本となる取組を行ったことを高く評価します。 ・横浜市唯一の大衆芸能の拠点として多彩で魅力的な公演を実施するだけでなく、コロナ禍においても感染状況に応じて、寄席体験プログラムやアウトリーチなど施設内外での取組も継続されました。子どもから大人まで、また、初心者から愛好者まで、様々な層に対するメニューが用意されています。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度と比較して公演数は減少しましたが、休館期間中に予定した公演を延期して開催するなど、演者の活動の場の確保に努めました。特に、「登竜門シリーズ」において若手演者の活動の場を確保したことや、のげシャレーにおいて工夫を凝らした演芸会を年間目標数よりも多く開催した点において、現場の創意工夫が強く感じられました。 ・寄席文字講座など、公演以外の面でも大衆芸能の魅力を発信するなど、愛好者の興味を引く企画が実施されています。
		□合計入場者数(月平均)	3,500人以上	平均1,835人 (合計16,513人)	-	・臨時閉館期間を除く9か月(7-3月)の平均入場者数とした。			
		□チケット販売数(一公演あたり平均)	120枚以上	平均27枚 (合計1,717枚)	-	・高齢者の来館が減少したこと、団体客の誘致ができないことが主な要因と思われる。			
		□子ども寄席	2回	感染症対策のため実施見送り	-	・春は公演中止、夏は感染症拡大防止のため内容を変更して開催したため、「子ども寄席」としては未実施。			
		■みなとみらい地区の企業など団体誘致とファミリー層に向けてのPR活動の実施	実施	感染症対策のため実施見送り	-				
		□チケット販売数(一公演あたり平均)	150枚以上	平均93枚 (合計839枚)	-	・にぎわい座で出演者を顔付けた10、11月は完売近い入りとなった。			
		■企画性のある公演を毎回実施	実施	実施	B	・企画は毎回変えて実施した。			
		■同じ席で鑑賞できるシリーズ券の先行販売	実施	感染症対策のため実施見送り	-	・前年度に発売された春夏セット券は、公演中止および座席振替等が発生したこともあり、秋冬セット券は発売を見合わせた。			
		■人気と実力を兼ね備えた演者の起用	実施	実施	B	・特に10、11月、1月に人気と実力を兼ね備えた演者の起用ができた。			
		10	「企画公演(毎月8回程度)」: 落語、漫才、コント、講談、浪曲、奇術、喜劇などバラエティ豊かな内容の公演を日替わりで開催	□公演実施	月8回程度	平均11公演 (合計98公演)	A		
11		□実力ある若手を登用	20公演以上	27公演	A	・客席数の減少により、出演者を減らした公演も多かったが、目標を上回ることはできた。			
(2) 創造的で発信性のある取組を実施します。	①創造・挑戦的な取り組み ・にぎわい座から生まれる作品の増加(ネタおろし・新作発表等) (企画公演に含まれる)	■日本の伝統的な大衆芸能を紹介する企画公演	開催	開催 (1公演)	B	1/4「新春特選 ニッポンの芸」は出演予定者に濃厚接触者が出たり、外出自粛を強く呼びかけていた時期であったりし、中止も視野に入っていた。尾張万歳を和妻に替えたりし、水戸大神楽とともに伝統的な大衆芸能の紹介を果たした。	【成果】 ・公演数を制限せざるを得なかったため、新たな取り組みを多く行うことはできませんでしたが、それでもタップダンス、コメディショーなど創造的で発信性のある公演も開催できました。 【課題】 ・市民ニーズは徐々に変化していますので、それを的確に捉えて、新たな発信を行うことが必要です。その一方で、伝統的な大衆芸能の魅力を伝える発信をどのように行うべきかも課題となっています。		
		■将来性のある新真打の披露公演	実施	実施 (5公演)	B	緊急事態宣言発出のため延期となる公演も多かったが、年度内にすべて代替公演を行うことができた。			
		■タップダンスや音楽芸を中心とした新しい形態の演芸会の開催	実施	実施	B	5月の予定が緊急事態宣言発出のため、3月に延期。公演は大入りとなった。			
		■「上方落語会」にぎわい座ならではの上方落語公演の開催	10公演以上	12公演	A	「上方落語会」を中心に、毎回、企画をこらして実施。			
		□年間公演数	10公演以上	15公演	A	野球ファン、鉄道ファンに向けた演芸会など工夫をこらして実施。			
		■みなとみらいホール、赤レンガ倉庫など「芸術創造特別支援事業」に参加	実施	感染症対策のため実施見送り	-	事業そのものがなくなり、未実施			
		17	・近隣文化施設との連携による新しい舞台作品の創造						

(3) 若手実演家育成の仕組みを作り実践します。	18	①主として小ホールを活用した若手育成 ※のげシャールで芸を磨き、芸能ホールへステップアップ」というコンセプトの明確化 「登竜門シリーズ in のげシャール」: 若手芸人研鑽の場として小ホール(のげシャール)のシリーズ公演を実施	<input type="checkbox"/> 年間公演数	20公演以上	16公演	-	客席を市松模様半敷にし、会場を芸能ホールに移したりして実施。	【成果】 ・育成公演という性格上、なるべく公演中止をせずに延期を して対応しました。席数が半数になるのに連動して、集客数 も半数に減ってしまいました。また、さまざまなサポートも十 分に行うことはできませんでした。
	19		<input type="checkbox"/> 平均入場者数	100人以上	平均70人 (合計1071人)	-	客席数の減少に伴い、平均入場者数も下がって いる。	【課題】 ・将来性のある若手はコロナ禍においても現れており、そう した方たちの育成につながる事業展開を図ることが課題で す。幸い若い演者のファン層は若い方たちが多くなってお り、公演を維持するだけの観客動員は可能となっています。 芸能ホール進出へのサポートも続けてまいります。
	20		■芸能ホール進出実現へのサポート	実施	実施	B	・ニツ目の桂宮治がR元年度のげシャールから芸 能ホールに移り、R2年度のコロナ禍であっても健 闘している。	
	21	登竜門シリーズ卒業生等の活動をサポート	<input type="checkbox"/> 「にぎわい座共催公演」の継続実施	2公演以上	未実施	-	・今年度の公演開催はなかったが、次年度開催の 公演が決定した。	
(4) 鑑賞者の拡大を図る取組を実施し、事業を支える仕組みを構築します。	22	①市民ニーズ把握の取組 ・全公演でのアンケート実施	<input type="checkbox"/> アンケートの実施回数	全公演実施	感染症対策のため アンケート実施見 送り。一部WEBアン ケート試行実施	-	・コロナ対応の為、アンケートの配布を中止してい たが、2月8日以降、試験的にWEBアンケートを実施 した。	【成果】 ・感染症拡大防止のため、チラシ等の配布のとりやめに伴 い、アンケートの実施も中止していましたが、2月半ばより試 行的にWEBアンケートを実施し、今後の対応に向けての参 考とすることができました。
	23	②鑑賞のすそ野の拡大・公演入場者数の拡大	■観客創造事業「趣味をテーマの演芸会」 の実施(参加者1公演あたり平均)	80人以上	平均140人 (2公演合計280人)	A	・野球および鉄道好きをテーマにした会を開催。コ ロナ対応のため会場を小ホールから芸能ホール へ変更したこともあり、より多くのお客様に楽しん でいただけた。	・「趣味をテーマの演芸会」は昨年度に引き続き「鉄道」と 今年度初の「野球」をテーマに開催し、何れの公演も普段と は違う客層が集まり、独特な盛り上がりが見られました。今 後もテーマの選択により、新たな集客につながる可能性が 感じられました。
	24	③要請により貸切公演を開催し、新規顧客を開拓し てレポートにつなげる	<input type="checkbox"/> 貸切公演の開催	要請により 4回以上	3回	-	・修学旅行の代替としての寄席体験での利用が3 件入った。もう1件打診があったが、コロナ感染拡 大を受け、キャンセルとなった。	・貸切公演については、定例で利用されていた団体の利用 がコロナ禍により中止となりましたが、修学旅行の代わりと しての演芸鑑賞の需要がありました。
	25		<input type="checkbox"/> 主催者の満足度(5段階)	4以上	感染症対策のため アンケート実施見 送り	-	・学校利用の為、アンケートは実施せず。	【課題】 ・市民ニーズを的確に把握し、さまざまな芸能をよりよい形 で発信し、観客層の拡大を図りたいと考えていま す。
	26	④にぎわい会員制度を活用し、リピーター作りに活 用	<input type="checkbox"/> 会員数	19,000人達成	20,934人	A	公演情報を知りたいという方々は多く、順調に伸 びている。	【成果】 ・順調に会員数を増やし、8月には20,000人を達成しました。
(5) 市民の大衆芸能に関する学習活動や創作活動を支援します。	27	①市民の創造性や感性を育み、特定のファンに限ら ず幅広い層がにぎわい座を知ることによる将来の観 客創造 ②大衆芸能を中心にしつつ、ジャンルを広げた企画 ③毎回重点テーマ(訪問先)を決めたアウトリーチの 実施 「ワークショップ、講座」: 寄席にちなんだワークショッ プ、野毛周辺で盛んなジャズを知る講座、横浜トリエ ンナーレ及び横浜芸術アクション事業に合わせた音 楽・美術・舞踊のジャンルで大衆芸能と親和性を持 たせたワークショップなどの開催	「寄席文化体験」 <input type="checkbox"/> 「寄席文字講座」「大神楽曲芸体験講 座」などの開催	受講者70人以上	35人	-	コロナの影響もあり、大神楽曲芸体験講座は実施 せず、寄席文字講座のみ開催した。	【成果】 ・様々な催しが中止となる中、定例の寄席文字講座は感染 症対策を講じたうえで開催することが出来ました。参加人数 が絞られていることが、お客様が比較的安心して催しに参 加できる要因ともなっていたようです。
	28		■企業や教育機関と連携した講座	要請により 実施	実施	B	・NHK文化センター横浜ランドマーク教室からの要 請で講座(レクチャー&バックステージツアー付公 演)を実施。次回以降の実施についても打診あり。	・NHK文化センターとの連携した催しは、今後もオンライン講 座などの形態も視野に入れながら、継続しての開催を検討 されています。
	29		<input type="checkbox"/> トリエンナーレ参加、紙切り芸公演	入場者80人以上	43人	-	・紙切りの林家楽一の出演で、体験コーナー付の 公演を実施。	【課題】 ・不特定多数の人が、狭いバックステージに集まり「密」の状 況を生じやすい為、コロナ禍では開催が難しくなってい たバックステージツアーは、オンライン上で体験できるコンテ ンツの作成など、代替案の検討が必要です。
	31		「野毛まちなかキャンパス」 <input type="checkbox"/> 講座の共催開催数	2回以上	感染症対策のため 実施見送り	-		
	32		<input type="checkbox"/> 同会場提供数	3回以上	感染症対策のため 実施見送り	-	・感染症拡大防止により開催中止。	
	33		<input type="checkbox"/> 同職員の講師派遣数	2回以上	感染症対策のため 実施見送り	-		
	34		「バックステージツアー」 <input type="checkbox"/> 一般向け(子供向け含む)開催数	2回以上	感染症対策のため 実施見送り	-	・感染症拡大防止のため、不特定多数の人が参 加するツアーの実施は見送った。	
	35		<input type="checkbox"/> 団体向けオンデマンド開催数	4回以上	1回実施	-	・NHK文化センター講座として1回開催。22名参 加。	
	36	「アウトリーチ」: 将来の観客作り、にぎわい座のPR、 上演の可能性拡大、多くの方に大衆芸能の楽しさを 伝えること等を目指した、施設外での取組	「アウトリーチ」 <input type="checkbox"/> 若手芸人の起用	3回以上	2回実施	-	・ニツ目の瀧川鯉丸、春風亭橋蔵、三遊亭遊子ら の出演で2回実施。2月に予定されていたものはコ ロナ禍により中止。	
	37		<input type="checkbox"/> 市民サポーター協働のモデル事業とし ての実施	実施	1回延期後、感染 症対策のため実施 見送り	-	・コロナを理由に、一度延期したが、最終的に中 止が決まった。	
38		■個人的なロケーションでの演芸会の実 施	実施	感染症対策のため 実施見送り	-	本郷ふじやま公園出前寄席を計画もコロナ禍によ り公演中止		

(6) 子どもの創造性育成の取組を行います。	39	①大衆芸能の楽しさと伝統を伝え、日本の文化への理解を深め、子どもの創造性や感性を育む 「寄席体験プログラム」:小学生向けに寄席体験の機会を提供	「寄席体験プログラム」 □実施回数	6回	6回	B	・定例で開催していた6月、10月は中止となったが、臨時で希望の学校に12月(および1月)に開催した。	【成果】 ・「寄席体験プログラム」(臨時開催)および「学校プログラム」は、このような時期だからこそ子ども達に寄席体験をさせてあげたいという思いから、現場の先生方とも入念に打ち合わせをしたうえで、感染症防止対策を講じたうえで実施しました。イベント自粛が多い中で、子ども達には貴重な機会となりました。 ・場内アナウンスを現状に合わせて変更したり、また、館としての感染症対策を分かりやすく映像にしたものをホームページ上にアップするなど、お客様が安心して来館・滞在できるように工夫しました。 【課題】 ・学校側の要望に答えるために、出演料を変えずに一回公演を二回公演にするなど、出演者に無理をお願いするケースが発生し、どこまで応じるべきかの線引きのバランスが難しいときがありました。
	40		■本事業を通じた学校との情報交換、「こども寄席」などのPR活動の連携	実施	感染症対策のため 実施見送り	-	・こども寄席が開催されなかった為、未実施。	
	41	「学校プログラム」:市立小学校等でのアウトリーチ事業の実施により子どもたちに触れ合いと体験の場を提供	「学校プログラム」 ■要請に応じコーディネート実施	要請に応じて実施	実施 (4校)	B	・要望のあった4校(荏子田小、瀬谷さくら小、牛久保小、平戸小)で実施。学校側と協力して、コロナ対策を取った形で開催した。	
	42		□教育委員会、教育機関との連携 アウトリーチや大衆芸能を主題にした教員向け研修など	要請に応じて実施	要請なし	-		
(7) 快適な鑑賞環境の整備を行います。	43	快適な鑑賞環境の整備を行う	□携帯電話抑止装置の設置 □鑑賞マナー・リテラシー向上の印刷物 □場内アナウンスの工夫	実施	実施	B	・感染症対策の点からも、さまざまな注意喚起を行った。	

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標②	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
2 大衆芸能に関する情報の収集及び提供を行います。	①情報収集及び提供 ・公演情報の集積(他施設情報の収集、配架の工夫)	■常に新鮮な情報が得られる配架方法を検討し実施	実施	実施	B	・感染症拡大防止対策として主催公演以外の配架を停止。その後、他施設情報も受入再開。	【成果】 ・定例の主催公演内容の告知に加え、毎月のにぎわい寄席の前座を写真付きで紹介したり、終演後に公演の演目(お題)をアップするなど、より魅力ある内容でのTwitter発信を行いました。 ・感染症対策として、主催公演以外のチラシ配架を一時中止しましたが、感染症対策を講じたうえで、徐々に受け入れを再開しました。特に2階情報コーナーについては、チケット受付の待ち列のソーシャルディスタンスを確保とチラシラック前での滞留がぶつからないように配架棚のレイアウトを変更しました。 ・インターネット上でのプレスリリースサービスを利用して、特に新規事業を中心に発信を行いました。 【課題】 ・感染症対策として、公演時に手渡しでのチラシ配布を行わなくなったこともあり、チラシを活用した広報については見直しを図る必要が出てきました。 ・展示は、人の滞留を防止する必要もあり、1年を通じて常設の真打昇進者のまねき展示以外実施できませんでした。コロナの感染状況次第ですが、常設展の内容や展示方法については検討の余地があると思われます。	
	2	■町内会、野毛ちかみち掲示板の活用 ・通行人に向けて、にぎわい座の楽しみ方を紹介	実施	実施	B			
	3	・記録(自主事業の映像記録、電子大福帳) ※資料としての公開等、活用に向けた取組みの実施	□電子大福帳にすべての公演情報を入力	実施	実施 (201公演)	B		
	4		■出演者経歴、演目解説など大衆芸能公演のアーカイブ化と継承を継続	実施	実施	B		
	5	・情報提供、相談対応(大衆芸能公演の実現に向けた市民等からの相談照会への対応)	□催事開催に関する相談対応や出演者の紹介などのコーディネート件数	30件以上	14件	-		・大学のオンライン授業での落語講師の依頼や、野毛でのイベント実施の相談、緊急事態宣言下の情報共有等。
	6	・広報、ホームページ ※訴求ターゲットを意識した公演チラシデザイン等の改訂 ※ホームページのコンテンツ拡充 等	□WEB会員へのメールマガジン年間配信回数	24回以上	38回	A		
	7		「Twitter」 □年間配信回数	400回以上	781回	A		
	8		公演情報や業務案内だけでなく多彩な内容でのTwitter発信 ■地域の行事 近隣施設のイベント情報を配信	実施	実施 (17件)	B		・近隣の野毛地区の情報や財団施設やイベント情報を中心に発信。
	9		■大衆芸能ミニ知識等 豆知識、公演や楽屋の様子などの配信	実施	実施 (177件)	B		豆知識、公演情報はツイッターで毎日配信。
	10		「チラシ」 ■公演やシリーズごとに訴求対象を明確にし、それに合わせた仕様を採用。落語未経験者を意識した掲載内容を考慮	実施	実施	B		
	11		■財団の広報・ACYグループと連携したプレスリリースの実施	実施	実施 (8回)	B		・新規事業などを中心し、インターネット上でのプレスリリースを発信しました。
	12		■新聞記者など識者に公演を見てもらい、その感想を広報に活用	実施	実施	B		・定期開催の公演(古今亭志ん輔「志ん輔三味」)や、小ホールシリーズもの(古今亭駒治「ただの鉄道好き」)について、実際にその演者の高座を見てもらい、後日公演告知記事を掲載(神奈川新聞)。
	13	・メディア懇談会	メディア懇談会 □記者や編集者を対象にした懇談会を開催	1回以上	感染症対策のため 実施見送り	-		・感染症予防のため中止
	14	②展示・演出 ・常設展・企画展・協力展(通年) ・開館15周年特別展(H29年度) ・照明や解説文などの工夫による展示の質向上、英語によるキャプション作成	企画展 □年間開催数 ・中嶋修展 ・手拭い展 ・写真展 ・寄席文字展 など	4回以上	感染症対策のため 実施見送り	-		・チケット受付待機列の空間確保の為、中止。
	15		常設展 ■解説や展示方法を改訂し、展示の質を向上	実施	実施	B		・感染症対策を講じた運営に影響を及ぼさない一部ガラスケースを使用して、新真打を紹介する招木や扇子・手拭い・口上書きの三点セット等を展示。
	16	・1階エントランスの演出、1・2階オープンスペース等での情報掲示 ・展示事業の案内を1階エントランスやホームページに掲載	□季節の館内装飾展示替え回数	10回以上	9回	-		4-6月臨時閉館

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
3 街のにぎわいづくりに寄与します。	17	①野毛地区との連携 ・「野毛地区街づくり会」や「野毛飲食業協同組合」と連携して、お互いのイベント広報活動に協力 ・野毛地区と互いの集客が好影響を与える点を重視した取組 ・公演鑑賞と野毛での飲食の楽しみを加え、お客様にも野毛の飲食店にも喜ばれる企画の実現	■野毛地区飲食業協同組合の「野毛手形」(飲み歩きクーポン)に参加	参加	感染症対策のため 実施見送り	-	コロナ禍の影響	【成果】 のげ茶屋の営業休止をはじめ、感染症対策の一環として飲食物が関連する取り組みの殆どが見送りとなりました。 「にぎわい座利用促進委員会」(野毛地区街づくり会傘下)との定例共催事業である野毛大道芸、敬老会、カラオケ大会も、街づくり会の判断で中止となりました。 それぞれの取組の開催是非の判断にあたっては、街づくり会と丁寧な意見交換を行い感染症終息後も視野に入れた協議を継続しました。 【課題】 コロナ禍の影響を見据えつつも、近年増えてきた野毛全体の集客力を、当館の動員につなげることが課題です。一方で限られた人的資源を営業力へ割けるかも課題です。
	18		■野毛地区飲食業協同組合と連携し、芸能ホール公演時に「のげ茶屋」営業	実施	実施	B	4~6月の臨時閉館、10月以降の館内飲食禁止より協議し、営業を休止。7~9月のみ営業。	
	19		野毛地区主催のイベントへの協力 ■「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施	実施	実施	B	コロナ禍の影響で実集客することが難しく、動画配信「アジアいちご基金寄席」の公開のみとなった。	
	20		■野毛大道芸など地域主体のイベントへの協力	実施	実施	B	R3年度野毛大道芸のプレイイベントを開催	
	21		MM21地区からの誘客 ■MM21地区の就業者の交流団体向けイベントを実施し、野毛への誘客を実現	2回以上	感染症対策のため 実施見送り	-	コロナ禍の影響	
4 市民と大衆芸能をつなぐ取組を行います。	22	①市民と大衆芸能をつなぐ多様な取組み ・鑑賞や自演、学習・体験だけでなく、他のアプローチで大衆芸能の支援者、ファンを増やす取組の実施 ②サポーター等との協働 ・にぎわいスタッフ	□にぎわいスタッフの声を活かすための改善提案アンケート実施数	2回以上	10回	A	アンケートや提案を踏まえ、再開のためのシミュレーションやコロナ禍における業務改善を実施	【成果】 感染症対策においては、来館者の検温消毒から誘導まで、日常業務に基づくにぎわいスタッフからの提案を活かすことにより、よりの確に対応策を立案実施することができました。 市民団体やNPOと協働したアウトリーチ活動や職業体験等は、予定していた多くの取組を、感染症の影響で見送りました。 【課題】 引き続き、大衆芸能の振興や地域への浸透に関心があり、サポーター等として参加を希望する人材を増やすことが課題です。
	23		■チケット販売促進プロジェクト推進	実施	感染症対策のため 実施見送り	-	対象公演が臨時休館中で中止となったため。	
	24	・市民サポーター ※生徒・学生等の実地体験等を積極的に受入れ	■アウトリーチにおける協働、オリバラ関連事業における広報の外国語対応、事業における逐次通訳等の実施	実施	実施	B		
	25		[職業体験、アートマネジメント実習] ■学校や学生からの要望により、にぎわい座ならではの体験の場を提供	実施	感染症対策のため 実施見送り	-	今年度は、コロナ禍の影響からか要望が無かった。	
	26	①都市戦略との連携 ・横浜アーツフェスティバル、オリバラ関連事業等との連携	横浜芸術アクション事業「トリエンナーレ」への協力 ■要請に合わせて、連携企画、広報協力などを実施	要請に応じて実施	要請なし	-	コロナ禍の影響により、トリエンナーレ自体の開催可否の判断が遅れ、十分協議することができなかった。	
5 都市戦略及び他施設と連携します。			「2020オリ・バラ関連企画」 ■外国人を含む幅広い層に、大神楽曲芸を知ってもらう講座	(1-5)再掲	感染症対策のため 実施見送り	-	オリバラ開催が延期され、海外からの訪日も制限されたため未実施。	
			■「芸術創造特別支援事業」に参加	(1-2)再掲	感染症対策のため 実施見送り	-	コロナ禍の影響により計画中止のため	
	27		「横浜ジャズブロードムナード2020」 ■会場運営チームに職員を派遣	実施	感染症対策のため 実施見送り	-	コロナ禍の影響により事業規模が縮小され、職員の派遣要請が無かった。	
	28		「横浜ダンスコレクション2021」 ■会場提供、運営支援、広報協力を実施	実施	実施	B		
29	・修学旅行やツアーでの企画商品化	□修学旅行、横浜遠足、卒業記念鑑賞会等の鑑賞機会の提供	3件以上	3件	B			
	②他施設等との連携 ・「財団内施設」「若手支援・舞台芸術の振興」「地域連携」「その他」などの場面・目的に応じた施設連携	■みなとみらいホール、赤レンガ倉庫などと「芸術創造特別支援事業」に参加	(1-2)再掲	感染症対策のため 実施見送り	-	コロナ禍の影響により計画が中止		

評価項目		R2年度計画		実施状況			評価	
II 施設運営目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績		特記事項	自己評価	行政評価
1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供を行います。	①各室場を、公演、練習、創作活動の場として積極的に貸出し、市民文化の振興に寄与。 ※大衆芸能での利用を優先し、空きがある場合はそれ以外のジャンルでの利用にも提供 ・施設の提供	①基本的な施設の提供 □開館日数・時間	342日(月2回 施設点検で休館) 10時~22時	269日	-	4~6月を臨時閉館。緊急事態宣言中、夜公演がない日は20時閉館短縮営業	【成果】 年度を通じて感染症対策に重点を置き、ガイドライン等の迅速な発信や丁寧な説明、催事開催の支援、利用時の感染症対策の徹底などに努め、利用者の安心感向上に努めました。 【課題】 コロナ禍で売り上げが減少する中、運営体制の見直しが課題です。	【評価する点】 ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、開館時間等の変更などに柔軟に対応しました。 ・貸館においては非常に厳しい状況ではありましたが、施設の空き状況をTwitterで発信するなど、利用促進の努力を続けてきました。 【更なる取組を期待する点】 ・各スタッフの技術向上のための人材育成を進めるとともに、個人情報の適切な管理や職員の人権意識や環境への意識をさらに高め、市民から信頼される人材育成に継続して取り組んでください。 ・専門人材の外部登用により事業企画に厚みが出ることを期待する一方で、にぎわい座において魅力的な企画を継続できるように専門人材を育成し、定着するような取組を継続して行ってください。
	②貸館の運営体制 ※貸館受付:常時2名以上在席(舞台技術者は常時1名対応可)	③貸館の運営体制 ■職員1人を貸館メイン担当とし、舞台技術スタッフとともに公演打合せや利用相談にきめ細やかに対応	実施	実施	B			
	③舞台運営体制	■舞台技術スタッフは芸能ホール3人、小ホール1人(小ホールは利用状況に応じて2人体制)	実施	実施	B			
	④要望・苦情への対応	■舞台技術統括責任者は経験10年以上、ほかのスタッフも経験5年以上	実施	実施	B			
2 利用促進及びサービスの向上、アイデア・ノウハウの一層の活用に取り組めます。	④ 稼働率目標	□目標利用率					【成果】 コロナ禍の中、利用促進として計画された取組を継続するのが困難な1年でした。そのような中、感染症対策を行いながら実施可能な事柄について着実に取り組みました。 【課題】 ・コロナ禍による一時的な影響はあるものの、利用率、利用料金の目標未達成を考慮し、引き続き利用促進のあり方の見直しが課題です。また利用促進を行う体制の確保も課題です。	
	5-1 芸能ホール(日)	80%	52%	-	緊急事態宣言に伴い、4~6月を臨時閉館。解除後もコロナ禍のため、各室上定員を50%にして実施。			
	5-2 のげシャレ(日)	70%	33%	-				
	5-3 練習室(時間帯)	80%	32%	-				
	5-4 制作室(時間帯)	60%	19%	-				
	6 利用率及び利用者サービスが高まる工夫	□土日祝日の施設空き情報をホームページ、SNSで案内	1回/月	実施 計16回	A			
	7 利用希望者施設見学受け入れ	■利用希望者施設見学受け入れ	随時実施	随時実施 計19団体	B			
	8 新規の利用者を増やすための工夫	□若手芸人を支援する「共催公演」での、のげシャレ活用(再掲)	(1-3)再掲					
	9 経常公演前後のホール活用プラン	■のげシャレでの演劇・ダンス等の公演誘致	実施	感染症対策のため 実施見送り	-	コロナ禍のため、見合わせ		
	10 要望苦情への対応	□芸能ホール 大衆芸能普及と振興のため、主催興行期間に協力事業を募集	年間12公演	5公演	-	コロナ禍のため、ニーズの低下		
	11 要望苦情への対応	■貸館に関する要望、苦情は、すべて支配人・館長まで報告	随時実施	随時実施	B			
	12 グッズ販売	■内容によって財団事務局や文化観光局に即時に報告	随時実施	随時実施	B			
	13 1階エントランスの演出、活用プラン	□グッズの販売	(IV-2掲載)					
	14 団体用チケット受付等、第2の受付に活用	■地域のインフォメーションに活用	通年実施	実施	B			
	15 売店事業者との連携	■団体用チケット受付等、第2の受付に活用	実施	実施	B			
	16 売店と連携し、利用者の要望に応じた公演時の売店営業や弁当等の手配を仲介	■公演開催時以外にもスタッフを配置する時間帯を設け、よりお客様が入りやすい演芸場を目指す	実施	感染症対策のため 一部実施	-	営業再開~12月まで、10時~20時に常駐して、感染症拡大防止への協力を案内		
17 売店と連携し、利用者の要望に応じた公演時の売店営業や弁当等の手配を仲介	■売店と連携し、利用者の要望に応じた公演時の売店営業や弁当等の手配を仲介	通年実施	感染症対策のため 一部実施	-	7~9月の間、書籍等グッズ、ソフトドリンク、飴のみ販売			
18 地元飲食店組合協力による特製弁当の提供	■地元飲食店組合協力による特製弁当の提供	実施	感染症対策のため 実施見送り	-	コロナ禍により、ホール内での飲食禁止としたため			
19 利用料金の割引等の取組み	■芸能ホール・小ホール リハーサル利用時50%割引(継続)	実施	実施	B				
20 第三期の新たな貸出プラン/利用者サービス	□撮影での貸出	年2回以上	10回	B				
	■貸出施設以外の撮影有料貸出(継続)	実施	要望無し	-				
	□貸館公演サポート業務を充実させ広報する。大判ポスター、チケット印刷、表方業務の受託	実施	実施	B				

3 組織的な施設運営を行います。	21	①適切な運営組織体制と人材の配置 ※館長1、副館長1、企画コーディネーター1、チームリーダー1、事業担当3(内1名はアシスタントプロデューサー)、管理担当3、アルバイト(事業・運営共通)2、公演表方チーフ1、にぎわいスタッフ最大30	■適切な人員の配置と運用 ※館長・CP1、支配人1、TL1(管理1)、担当L1(事業1)、職員5(管理3、事業2)、アルバイト2(2人2ポスト)、公演表方チーフ1(1人1ポスト)、にぎわいスタッフ最大30	実施	実施	B	【成果】 大衆芸能分野での専門性向上、人材育成はチーフプロデューサーを中心に進んでいます。 また、コロナ禍の中、スタッフの安全性を最大限に考慮した配置と運用に努めました。 【課題】 事業(興行)面はもとより劇場運営、広報など、大衆芸能分野における幅広い職域で専門性を深化させることが課題です。
	22		■勤務体制は各2人以上のシフト制とし、主催事業や貸館状況に応じて職員・スタッフを配置	実施	実施	B	
	23	・自主事業の企画体制	■大衆芸能分野のプロデューサーを館長とし、事業担当職員を専門職員候補として中期的に育成	実施	実施	B	
	24	②主要人材の能力確保、研修実施、スタッフの育成・チームワーク醸成の取組み ※アシスタントプロデューサーの育成	■社内外の研修参加や資格取得を奨励	実施	実施	B	
	25		■課題を共有し、全スタッフが意見を言える環境づくり	実施	実施	B	
26		■研修やOJTで、窓口スタッフの接客スキル向上を図る	実施	実施	B		
27			実施	実施	B		
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組を行います。	28	①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	① 個人情報保護・情報公開 ■「財団の個人情報保護に関する規程」「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守	実施	実施	B	【成果】 スタッフ全員に個人情報保護等を再認識させ、全員がルールを守る職場環境を整え、業務が円滑に進むよう取り組みました。 【課題】 引き続き、スタッフ全員がコンプライアンス意識を深め、業務に取り組みます。
	29		■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックの徹底	実施	実施	B	
	30		■入場券販売やメールマガジン配信に票券管理システムを導入し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止	実施	実施	B	
	31		② 人権尊重 ■人権研修への参加、職場内での研修実施	実施	実施	B	
	32		□にぎわいスタッフ向け接遇研修実施	2回以上	3回	A	
	33		③ 環境への配慮 ■施設の利用状況を小まめに確認しながらの空調・照明のオンオフ操作による光熱水費の削減	実施	実施	B	
	34		■ゴミの軽減と持ち帰りを促進。併せて受益者負担の見直しを行う ゴミ処理費用の新設	実施	未実施	-	
	35-1		④ 市内中小企業優先発注 □備品・消耗品購入	90%以上	未達成	-	
35-2		□修繕・備品の買い替え	90%以上	未達成	-		
35-3		□印刷物	80%以上	達成	B		
						ファックス送信や郵送の際のダブルチェックを徹底したが、郵送ミスが1件発生	
						ゴミ処理有料化は来年度以降に持ち越し。	
						春先に調達したサーモグラフィーや消毒用アルコールなど新型コロナウイルス感染症対策資材調達が市内業者では当時対応できなかったため市外事業者となりました。	

評価項目		R2年度計画		実施状況			評価	
Ⅲ維持管理目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績		特記事項	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理	①施設及び設備の維持保全及び管理 ・共用部:ビル管理組合との連携、大規模修繕への配慮 ・専有部:建築設備等、舞台設備、備品、消耗品、清掃	■建築設備、舞台設備の施設保守管理業務項目一覧に明記された保全管理及び点検の遺漏ない実施	実施	実施	B	コロナ禍により、従来行っていた紙でのアンケートの収集を取止めていたが、2月からオンライン形式で試行実施	【成果】 ・定められた事項について遺漏なく実施しました。 【課題】 ・竣工から20年が経過し、劣化等により安定的な運営リスクが高まっています。	【評価する点】 ・「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等に沿った運営を行い、来館者に安心感のある運営に寄与するなど、施設としての安全管理意識の高さを評価します。 ・市の実施する空調工事について、コロナ禍の状況を踏まえながら、協力的に調整業務を行うなど、着実な維持管理が行われています。 ・不具合発生時には設備業者、保守管理会社や管理組合と連絡調整を行い、市側とも迅速な状況共有が行われました。 【更なる取組を期待する点】 ・集客施設という性質上、今後も感染症や風水害に対する取組がより一層求められることとなります。現場で感じた課題等については横浜市と共有・協議を進めながら、柔軟かつ臨機応変な対応を期待します。 ・保守点検や小破修繕を引き続き確実に実施するとともに、施設の不具合情報について横浜市などの関係者と密なる共有をお願いします。 ・高齢者や障害者など様々な来場者に対する、スタッフ全体の接客スキルの維持・向上を期待します。 ・災害発生時に備えた体制の維持のため、訓練やマニュアルの検証等を継続して行ってください。
		■委託業者により設備系及び消防系の目視点検を毎日実施	実施	実施	B			
		□設備の不具合による施設貸出停止ゼロ	0件	0件	B			
		□来館者アンケートの施設快適性評価(5点満点)	平均4以上	感染症対策のためオンライン形式でのアンケートを試行実施中	-			
2 小破修繕の着実な実行	①小破修繕の取組	■優先順位を的確に判断しての修繕、更新の実施	実施	実施	B	17件3,076千円の修繕、更新を実施	【成果】 頻発する故障に適切に対処し、利用者に影響が生じないように努めました。また感染症対策に必要な空調設備修繕などの案件を優先して実施しました。 【課題】 舞台、空調、電気、EVなど開館から20年が経過し、経年劣化により小破修繕だけでは解決できないことが予想されます。	
3 事故予防及び緊急時の対応	①事故防止体制、緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理の実施、複合ビル内の連絡体制の確保	①事故防止対策、緊急時(防犯)対応 □施設管理者有責による人身事故件数	0件	0件	B	安全管理に努め事故防止を図り、安心安全な施設運営に努めました。 【課題】 安全管理や事故防止対策等を講じ、引き続きどのような方に対しても安心安全な施設運営に努めます。		
		■スタッフ及び委託業者による巡回を実施し、建物や設備の不具合、危険を早期に発見し、適切に対応	実施	実施	B			
		■主催事業や施設の利用状況に合わせ、楽屋管理口にごわいスタッフが常駐し、開施設及び管理	実施	実施	B			
		■ケアの必要なお客様来場時には、スタッフが連携をとって見守り、適切な距離感で補助を行う	実施	実施	B			
		②感染症対策 ■スタッフ及び委託業者による巡回で異常を早期に発見	実施	実施	B			
		■汚物処理は感染症を念頭におき、効果的に実施	実施	実施	B			
		③緊急時の体制、連絡体制 ■シフト勤務の中、予め当日の責任者を明確にして対応。 ■主催事業や観客の多い貸館公演の日は、スタッフを増やして対応 ・原則、リーダー以上が出勤	実施	実施	B			
4 防災に対する取組	①危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施、その他防災に関する事項	■現行マニュアルの検証と法令等に合わせた必要な改訂	実施	実施	B	【成果】 コロナ禍の中、適宜改訂される「「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等に適切に対応しました。 【課題】 常に災害等の想定を見直したマニュアルの策定が課題になります。		
		■天候異常や交通機関の停止時には、休館や開館時間の変更など、施設と利用者、スタッフの安全を確保する対策をとる	実施	実施	B			
		□全スタッフ参加の避難訓練実施	2回以上	2回	B			
		帰宅困難者及び避難者の受入れ ■災害時には横浜市の要請に応じ、帰宅困難者一時滞在施設・避難受入施設と同様、避難者の受入れを行う	実施	要請なし	-			
5 その他管理に関する事項		■専門業者に委託し、関係法令ならびに管理業務基準に沿った管理・保守点検を実施	(Ⅲ-1再掲)			【成果】 ・設備管理委託事業者とは常に連携し、管理・保守点検を遺漏なく実施しました。 【課題】 ・複合施設のため設備構成が複雑で責任範囲が不明瞭となることもあります。		

評価項目		R2年度計画		実施状況			評価	
IV収支	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績		特記事項	自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	1	(収支計算書) 適切な収支構造、収支バランスの確保	実施					
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	①指定管理料にのみ依存しない収入確保の取組	①利用料金収入の確保 ■利用率 □収入目標	(Ⅱ-2再掲)	8,061千円		コロナ禍による臨時休館で4~6月は貸し館ができず、また感染症対策のため7月以降も定員の50%で実施したため確保できませんでした。	【成果】 コロナ禍の影響で、入場料収入や利用料金収入が大幅に減少し、施設単独では収支バランスを取ることが困難となりました。 【課題】 主催事業の収益によって施設全体の収支バランスをとっている横浜にぎわい座にとっては、特に入場料収入の減少が施設全体の収支に与える影響が大きい点が、以降の課題として顕在化しました。 【評価する点】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館をはじめ、公演開催時の客席制限や施設の利用制限などが原因となり収入が大きく減少しましたが、不要となった印刷費等の経費節減などに努められたことを評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・事業収入により収支の均衡を保ってきた横浜にぎわい座にとって厳しい状況が続きますが、健全な収支に近づけるための運営見直しについても、不断の検討をお願いします。	
	2		21,800千円	37%				
	3	②チケット受託販売 □受託実績 ※公演月若しくは精算月に計上	24 公演以上	15公演	-			
	4	■預かりチケット取扱い公演をPRする 催し物案内、HP公演情報の掲載 チラシ配架、ポスター掲出	実施	実施	B			
	5	③自主事業収入の増収 □入場料収入	140,000千円	55,354千円 40%		コロナ禍による臨時休館で4~6月は興行ができず、また感染症対策のため7月以降も定員の50%で実施したため入場料収入が確保できませんでした。		
	6	■チケット販売方法の検討	実施	実施	B			
	7	□団体販売実績(月平均)	月平均5団体以上	11団体	-	コロナ禍の影響で実績が下回りました。		
	8	④協賛金の獲得 □協賛(現物協賛を含む)件数	1 件以上	3件	A	竹書房様 2件、TBSラジオ様 1件		
	9	⑤オリジナル商品開発及び販売	200千円以上	¥70,893	-	コロナ禍の影響で来館者数が減少し売り上げが延びませんでした。		
	10	□オリジナルグッズ お土産マドレーヌ 落語家てぬぐい 大入りチケットホルダー	3種類以上	感染症対策のため 2種類	-	コロナ禍の影響で食べ物の販売を見送ったため2種類となりました。		
3 経費削減及び効率的運営努力	①経費節減等効果的運営の取組	⑦経費削減 ■入札、見積もり合わせの徹底	実施	実施	B		【成果】 掲げた目標を着実に実施しました。 【課題】 表方チーフ制は昨年度から引き続いて効果的な取り組みであるため、今後は継続的に人材の確保が課題になります。	
	12	■計画的なチラシ発送による郵送料の削減	実施	実施	B			
	13	⑧コスト意識 ■シフト調整、公演表方チーフ制による業務分担の見直し等による超過勤務削減	実施	実施	B			
	14	■超過勤務の事前申請の徹底	実施	実施	B			

評価項目		R2年度計画	実施状況	評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	特記事項	自己評価	行政評価
	1			<p>【成果】</p> <p>①文化事業について 新型コロナウイルス感染症拡大により、観客数は大幅な減少となりましたが、生の芸能を楽しみたいという声もあり、環境を整えて可能な限り多くの公演を行いました。その時々状況に一喜一憂することなく、観客の安全安心を第一に、収束が見えるまで座席数の増加ははからないという決意を固めることができたのが最大の成果となりました。また、タップダンスを中心としたコメディショー「TAP DO」公演では新たな観客動員をはかることができ、今後明るい期待を抱かせる成果をあげました。</p> <p>②施設運営・管理について お客様の安全安心を最優先に考え、主催事業中止・延期、ガイドラインに基づく感染拡大予防策、公演チケット購入者や施設利用者に対する払い戻し対応、出演者や施設勤務者の安全確保など、多岐にわたる諸策を講じました。昨年度新たにスタートさせた毎月前半の芸能ホールを大衆芸能公演に提供する取り組みを活用し、計5公演開催できたことは今後の利用促進活動に向けた大きな成果となりました。</p> <p>④収支について 入場料収入や利用料金収入が大幅に減少し、施設単独では収支バランスを取ることが困難となりました。今年度の収支については横浜市からの補填や、感染症対策に関わる文化庁からの補助を得ることでバランスを保ちました。</p> <p>【課題】</p> <p>①文化事業について 6月までの閉館措置やそれ以降の座席数制限、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から、一旦は100%定員とした観客数に再度制限がかかり、3月興行から千鳥配列に戻しました。観客の安全安心を第一に、収束が見えるまで座席数の増加ははからない中で興行を成立させていくことが最大の課題となります。</p> <p>②施設運営・管理について 新型コロナウイルス感染症の影響により過年度に比較して利用率、利用料金収入とも大幅な減少となりました。感染拡大が収まるまでは対策に重点を置き、ガイドライン等の迅速な発信や丁寧な説明、催事開催の支援、利用時の感染症対策の徹底などに努め、利用者の安心感向上に努める必要があります。</p> <p>④収支について 主催事業の収益によって施設全体の収支バランスをとっている横浜にぎわい座にとっては、特に入場料収入の減少が施設全体の収支に与える影響が大きい点が、以降の課題として顕在化しました。感染症の影響がある程度残ると予想される次年度以降の収支バランスを保つため、これまでになく徹底した経費節減策の立案・準備を進める必要があります。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置及び感染症対策ガイドラインの内容に応じて、休館や時短営業などに柔軟に対応したほか、感染症対策を十分に検討・実施し、他の施設の見本となる取組を行いました。</p> <p>・とりわけ、公演の実施にあたっては、前年度から計画した幅広い演目の公演をできる限り実施し、演者の活動の場を確保しつつ、来場者の安全安心のためにチケット販売数を客席定員の50%に制限するなど、多角的な視点をもって配慮されたことを高く評価します。</p> <p>・厳しい経営状況は当面の間続くことが想定されますが、横浜市民芸センター条例第1条に掲げられている『落語、漫才その他の大衆芸能(以下「大衆芸能」という。)の振興を図る』という設置目的を達成するため、次世代育成や社会包摂など、公営の演芸場として事業のバランスを取りながら運営を進められることを期待します。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の早期収束を期待する一方で、長期化することも想定し、施設運営の様々な側面において予め対策を検討する必要があります。この点については、次期指定期間の提案においても記載されていますが、今後の運営を進める中においても、これまでの発想にとらわれない取捨選択や事業転換の検討が常に必要になると考えられます。時には業務の基準や提案書にとらわれない運営も必要になる時期ですので、市と協議のうえ、柔軟かつ臨機応変な対応も先行して検討してください。</p>
	1				